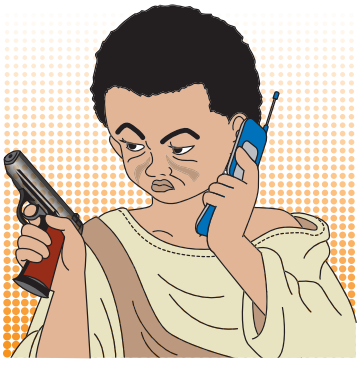
column

無線博士の三大陸漂流記

中村 康久（NTTドコモ）
工学博士。NTTドコモで米国、フランス、ブラジルのオフィス駐在を経験し、現在はITS推進室室長。

［ 第3回 ］
ブラジル編 ～神の街での生活～

ポルトガル語で“1月の川”を意味するリオデジャネイロは、皆さんもご存知のカーニバルの地、そして我が日本代表ジーコ監督が若き頃所属していた名門サッカークラブ、フラメンゴなどがある南米最大の観光都市である。世界的に有名なイパネマ、コパカバーナと10Km以上続く白いビーチはビーチバレーやビーチサッカーのメッカとして一年中賑わっている。もちろんカーニバルシーズンには世界中から観光客が殺到し大変な賑わいを見せる。


イラスト：西井美保

リオの人たち（カリオカと言う）にとってジーコは1981年のトヨタカップ@東京でリバプールを3対0で破り世界一となった立役者として今でも永遠のアイドルである。最近はリオ郊外にある広大なジーコ設立のサッカースクールに留学する日本の子供達も多い。現日本代表FWの鈴木もここに一年間留学していた。

さて、息子達が小学生の頃通学していたリオの日本人学校は、リオ市内の小高い丘と丘の間の狭間にある。昭和40年代の設立当時は某大手製鉄会社が当地に進出していたこともあり、日本人生徒数は400名を超えスクールバスも大型バス7台という大規模校だった。だがその後の景気低迷で製鉄会社が撤退すると生徒数は年々減少し、我々が滞在していた4-5年前は生徒総数が小、中合わせて9学年で約20名という超少人数制に変身していた。その結果、各学年は担任の先生1名に生徒1、2名と日本ではとても望めない贅沢な教育環境であった。

リオでの生活で子供達にとって何よりの衝撃は、毎週のように近隣の丘に陣取るファベーラ（貧民街）同士で起きる銃撃戦であった。ご覧になった方も多いと思うが、この辺の事情は2003年のアカデミー賞ブラジル映画City of Godに詳しい。ちなみに神の街とは当地でのリオの通称である。撃ち合いの原因は貧困と麻薬取引に伴う抗争であるが、撃ち合いが始まると、本物の実弾が学校の校舎の上を何発も飛び交うことになる。抗争が始まると当然授業は中止となり先生、生徒は校舎の中央の廊下の壁に身をよせ、終わるのをじっと身を伏せて待つ。小さな子供達にとってハリウッド映画の大げさな銃撃戦よりは数倍迫力があることは間違いない。ブラジル出身のプロサッカー選手はファベーラ出身も多いと聞く。どうりで足が速く心臓が強いわけである。

当時高校1年の長女は、現地のアメリカンスクールに通学した。しかし平均的ブラジル人にとって私立のアメリカンスクールに通えるのは一握りの富裕層だけで、親の職業もパイロットとか医者が多い。生徒の多くはこうした裕福なブラジル人の子弟が占め、その結果休み時間の私語はポルトガル語となる。一度保護者向け説明会で先生が英語ではなくポルトガル語で説明を始めた。これにはさすがに私も閉口し英語で説明するよう要請したが、周りの多くのブラジル人父兄の視線は私に冷たかった。

そんなブラジルも昨今は、いわゆる携帯電話の普及がめざましいBRICs諸国の1つとして注目されている。ブラジルは1998年に通信市場開放と自由化が行われた。その結果、それまで政府管轄化であった通信事業も海外投資が相次ぎ、激しい事業者間のサービスや料金競争が起きている。特にケータイ事業については、2000年にブラジル政府がGSMライセンスを認めたことにより、米国技術ベースのCDMA対欧州のGSMの一騎打ちの様相となり今後も当分目が離せない。

ケータイは日本同様、ブラジルでも若者たちの間で大人気である。まだ高値の花なのでいわゆるプリペイドタイプがほとんどであるが、サッカー場でケータイ片手にチームを応援する若者も多いし、ビジネスマンにも必須アイテムである。日本とは地球の反対側の遠い南米でもこれだけケータイが愛されているのを目の当たりにすると、ケータイは本当に20世紀を代表するグローバルな愛すべき商品であることを実感する。リオでも一日も早く貧困が解消されファベーラの若者たちが銃を捨て、代わりにケータイを持つ日が来てほしいものだ。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

［インターネットマガジン　バックナンバーアーカイブ］ ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D（株式会社インプレスから分割）が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン　バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

http://i.impressRD.jp/bn

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容（技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど）は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者（執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など）が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元（株式会社インプレスR&D）、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D（当時は株式会社インプレス）と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接的および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先
株式会社インプレスR&D
All-in-One INTERNET magazine 編集部
im-info@impress.co.jp

Copyright © 1994-2007 Impress R&D, an Impress Group company. All rights reserved.